



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第96号(2011年6月24日)

「日本の復興と電力改革の実現」

今日本が直面しているのは、東日本大震災の激甚災害からの復興のみならず、「日本の復興」です。海外からの多くの義援金と共に寄せられたのは「日本は必ず復興する」、「復興を信じている」という期待の声です。これは日本が過去において幾つもの危機を乗り越えてきた歴史が海外の人々に記憶されているからでしょう。

「日本」は戦後、焼け野原に新たに工場を建てることから出発し、傾斜生産方式をはじめとする積極的な施策を採ることで、生産現場の壊滅的な危機を乗り越え産業の育成を図り、その後企業の組織化、技術革新の強力な推進で国際競争力を備えてきました。そして内外の摩擦、危機に何度も直面しながらも、乗り越えてきたのです。

それらの例として、繊維業界は、1970年代初めまでの日米繊維交渉の結果としての米国への大量輸出の制限、その後国内での新興国の廉価な繊維製品による市場の席捲という危機に直面しましたが、総合化学メーカーへの転換、高付加価値の炭素繊維の商業化、医薬品分野の開拓などを進め、業態の変化を図ってきました。

自動車業界は技術的に無理といわれていた米国の排気ガス規制法であるマスキー法規制について先陣を切ってクリアし、オイル・ショック後激しさを増した日米自動車摩擦における数量規制では、省燃費車による高い利益率で克服し、海外市場での「日本車」のブランドを確立しました。カメラ製造業においては、市場の成熟化に対して総合事務機メーカーへの転換、他業種との統合などで乗り越え且つグローバル化を果たしてきました。造船産業は、他国とのコスト競争や造船市況の悪化に直面する中で、環境・プラント・インフラなどの分野への多角的な事業変革を進めてきました。

商社は1980年代、円高となったことも相俟って「商社冬の時代」に直面しましたが、貿易、物流、商社金融の伝統的な事業以外に、先端テーマや国家規模の開発事業のコーディネーターとして、変化を捉えたビジネスを展開しております。近年でも資源エネルギーの開発・実用化、スマート・グリッド関連の実証実験・稼働化への参画または重要な投資主体としてその存在を見せています。

日本全体としても、二度に渡る石油危機を国全体が省石油体質へ転換することで乗り越え、産業界、国民生活ともに石油価格の変動に対して強い耐性をつけてまいりました。日本は危機、絶望に見回われながらも、産業・企業が既定概念を壊し、或いは高度の技術革新で新分野を開拓するなど克服し、日本人らしさ（創意工夫、細やかさ等）で長期の成長、国際的優位を勝ち取ってきたのだと考えます。これが海外から期待される「日本」の姿です。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

『スパークス 日本株長期投資のすすめ』



スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第96号(2011年6月24日)

日本は難局を逞しい生き様で乗り越えてきました。しかし、残念ながら現在は「閉塞感」という重しに苛まれている世相です。改めて日本の底力を見直すときです。

ただ、日本は今までの難局を克服するためにそれぞれ長い時間を要しておりました。今日、新興国の成長は日本の長いスパンの対応を待ってくれません。スピードが求められます。現在、日本が直面している難局は、大震災の被災からの復興と同時に電力エネルギー源の危機という形で顕在化した問題です。電力問題は長期投資となります。しかし国民生活、日本経済の国際競争力にダイレクトな影響を及ぼすものであるからこそ、スピード感を持って「スマート・グリッド」の実用化などの対応を通し、早いスケジュール化と、出来るものに優先的に着手することが、新しい電力体制へ転換する端緒となります。

今、被災地の方は一步一步、一つ一つ、直面している現実からの復興に執念をかけ動いています。日本に必要なのは「日本」復興への執念であると思います。

注) 上記は株式投資に関して理解を深めていただくためのものであり、特定の有価証券を推奨しているものではありません。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。また、上記は株式投資に関して理解を深めていただくためのものであり、特定の有価証券を推奨しているものではありません。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。